

・雨でも休まず、246回、247回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動：10月 5（第一日曜日）：小原本陣の森・・・、弁当持参
*ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
- ・
- ・定例活動：10月19日（第三日曜日）：若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
*一般むき、参加費400円、主食・自分の食器持、飲料水。
.....
- *注意事項1：初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
・服装：汚れても良い服装、着替え・滑らない足元
・持参：飲料水、成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、
- *注意事項2：危険管理・救急体制：森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

・お互いを支え合い、高め合う・・・森仲間たち

若柳の森では大体、60～80人程度が集まり、それぞれに自分に適した活動班に所属する。活動内容によっては手が足りないことも起こる。朝礼の時に「人、手が足りない、応援して欲しい」と声をかければ、直ちに人手が揃う。

小原の森は10人～20人が集まる。9月は雨予報のせいか参加は8人だった。この日、大久保沢に流量枡を設置する計画で（その様子は、広石由美さんの小原の森報告中）、沢の整地と枡の運びこみに全員の手が必要となった。川田指揮者が、「そんな訳だから手伝ってほしい」と申し出たら全員、OK、午前中で設置は完了した。

最近、相談が必要な活動が増えた。中里山整備をどのように進めようとか、林地団地化をどう考えるとか、申請書の内容をチェックして欲しいとか、メーリングリストのルールづくりを手伝って欲しいなどである。資料を添付して送ると、実に適正なアドバイスが返ってくる。時には、痛烈に痛いところを突いてくるが“良薬、口に苦し”、ありがたく服用させて頂いている。

そして、日常の活動の中でその人の人格に直接、触れることがある。森は、そんなところなのだろう。例えば、自分が持っていない、思慮深さとか、親切さとか、思いやりとか、勇気、冷静、明朗快活、誠実、責任感、正直、おおらかさ、謙譲、平静、不動心・・・、

これらに気付かされて、自分を顧みることが多々ある。それはどうも自分だけではなさそうだ。周りをグルッと見渡すと、沢山の森仲間たちが同様に森の中で互いに人間性を高めあっているのが実感できる。森林には、こんな力もある。

小原本陣の森・定例活動・9月7日（第一日曜日）



前回の活動ではヒグラシがとて多く鳴いていましたが、今回はそれもなく、たくさんのツクツクホウシが鳴き、全体的に涼しくてもう夏も終わりにかけているなど感じました。今回のForest Novaの参加者は4人しかいませんでしたが、その寂しさには負けず楽しく活動できたと思います。

午前中

午前中は沢の水量を調査するために、川田さんを中心として流量計を設置しました。流量計は三角せき、四角

せき、全幅せきの3種類あり、今回は全幅せきを利用しました。

流量計を設置をする理由は、緑のダムが森林経営の指導を受けている東林業さんから沢があるところは尾根が急なため、沢の水量を開発前の調査データとして残しておくことが今後の森づくりに活かせるからということです。流量計は水の高さを計って調査するため、地面を平らにしなければなりません。大きな石をどかしたり、水が横を流れていかないように小石や砂利を探しているうちに気づけばスニーカーがびしょびしょになっていました。石をたくさんどけたり小石や砂利をとって沢の形状を変えたためか、途中でサワガニを見つけたりもしました。

午後

午後は中里山の入り口付近の下草刈りを行いました。主にアオキを切ったり、アブラチャンの剪定を行いました。実際に剪定の仕方を教えてもらい、自分でそれをやることでとても覚えられたし、だんだんとコツもわかってきて、やっぱりフィールドワークってすごいなと感じました。太い枝の方を枝分かれしているところから5mm位のところを切るのが今後木を成長させるのに一番ちょうどいいとのことです。

また、昔間伐をした木が縦向きに放置されていて、これは水が流れる通り道となってしまうため土砂が崩れやすくなってしまい、よくありません。土留めを強くするためにこれらの木を横向きに直したりもしました。中里山は傾斜が結構急なため、作業するときに何度も滑りそうになりました。中里山はテープで囲った2haの場所ですが、協力協約で、NPOによる30度以上の傾斜地の手入れは事故につながる危険性が高いため、やってほしくないらしいです。そのためそれ以下の0.75haしか手入れができないとのことです。

下草刈り終了後は見晴らしがとてもよくなり、見違えるほど景観の変化が大きかったため、いつもより「作業したな」と直に感じられました。斜面で枝や草をたくさん切ったため、つなぎもその分汚れました。今までの作業で1番つなぎが汚れたなと思います。その分作業後の気分は爽快で、とても充実していた1日だったと思います。

茹で栗と大木の伐採・・・前々日の台風のために、朝礼前に栗拾い。お昼のデザートかな・・・と期待膨らむ。

この日の多数に若者の参加で爽やかな森。参加者；望星高校22名(指導の先生2名、望星OB3名含む)、学生連合10名、新規企業(株タケエイ)5名、会員12名、飛び込み4名、計53名。

現在の基地を長年、使っているので参加者の重みで土が硬くなって、周りの木を傷めているので基地の移動が検討されていた。モマ工房の上部150坪ばかりを、新しい基地にするための林床整理に取り組む。散乱した下草整理、腐りかけた倒木処理、整地、道具小屋や炊事小屋の縄張りなどである。

望星高校は、来る文化祭に使うための中径木を伐倒。ところが、最初の伐倒木が倒す目標方向を外し、林道に向こうの木に引っ掛かり、枝どうしがガッチリ絡んで下ろせない!!!。綱引き宜しく15人掛かりで引っ張れども、唯揺れるばかり。そこでベテランの石村・川田おじさんパワーの登場。チェーンソーと槌の原理で問題解決。中径木と言えども、木の重々しさ、威力を感じさせられた作業でした。

初参加の(株)タケエイの5人は、佐々木ファール先生の森林指導を受ける。植生・昆虫・鳥、哺乳類。相手に合わせてCSR(企業の社会貢献)まで。参加女性の木村さんと船橋さんは「森づくりは“植林”と思ってましたが“間伐”が森づくりの重要課題だとは・・・、勉強になりました」

卒論学生を引率した、お久振りの桜井先生(日大教授)は、フォレストノバの学生にも、懇切丁寧な、ご指導をしておられました(学生連合の記事は別添：省略)

石村ママが足を痛めて今日はお休み、三ママ(吉沢・青山・平沢)がお昼を作ってくれました。朝、拾った栗は、ビニール袋に均等に分けて全員のお土産になりました。



怪しいまでに美しい

荒廃林手入れ3年を経過した巨木の森

蘇生した・・緑のダム・湘南の森活動 8月30日:第5土曜日

4年前に活動はじめて平塚の岩澤由美さんに1年研修後、「継続すれば、必ず芽が出るから」と後を託しておいた。岩澤由美さんはこの3年ずっと、“雨でも休まず・・・・”の約束を守ってくれた。

何かと手を尽くしていたのだが、全日本インストラクター会、神奈川会と交流が始まって、「では先ず、森の状況を見てから・・・・」と6月・7月と視察参加をしてくれた。

8月末の29日は雷雨の大あらしで、活動日30日(第五土曜日)の予報は、曇り時々雨。

その状況に大磯駅前に10人が集まった。10時、三表山頂上(152m)の浅間神社周辺のボサ刈りをする事とした。お昼少し前、一転にわかにかき曇り、大粒の雨が降り出したので全員、湘南平・頂上レストランに逃げ込んだ。

昼食後は、これ幸いと運営会議に切り替え、今後の活動について話し合った。臨時代表をしてくれていた岩澤さんが正式に代表を決めて欲しいとの発言に対し、宇佐美の佐藤憲隆さんが、名乗りを上げてくれた。



佐藤さんは、地質調査や測量を仕事としていただけに山に対しても造詣が深く、落ち着いた人柄もあって全員、異論なし。

この土地の管理組合や平塚市のみどり公園課は、当会活動を認めてくれてもおり、近々、進め方を相談することにして、この日の活動を終了した。「無理せず、急がず、休まず、楽しく、ボチボチと・・・・」の実践がここでも良い形になって、活動は進化している。(石村記)

水源環境の保全と再生;第6回・かながわ県民会議(9月11日) 報告 石村 黄仁

19年度から始まった「水源環境の保全・再生事業・20年計画、第1期5カ年計画・2年目」の第6回県民会議は、神奈川県庁・本庁舎3階・大会議室で18時15分~20時30まで開催された。出席者は、委員25名と県担当部署職員25名、計50名。

毎度のことながら、県民会議の準備周到・緻密な事業の推進には驚かされる。会議も流れるように進むが、発言の多くは、市民団体側からで学識経験者・公的団体代表の発言が少ないのは寂しい。議題は、事業の進捗状況、森・水班のモニタリング報告とニュースレター発行について。

事業進捗状況

単位：万円

	19年度予算	実績	差額	20年度予算
森林の保全・再生	27億0167	26億0069	-1億0098	27億1577
河川の保全・再生	2.6810	2.6740	0070	4.0860
地下水保全・再生	1.4410	1.4320	0090	2.1290
水源環境負荷軽減	1.9510	1.0470	2400	6.6320
支える仕組み	6942	6324	0168	2.5875
合計	33億7390	32億4564	1億2826	42億5924

それぞれの報告と質問、回答には真剣な応酬があって、納得・理解できるものがあったが、当会が、事業の初段階から言い続けていることは、「持続的森林経営を可能とする“経済性の創出”が織り込まれていない」ことだ。5カ年間の事業として骨格が決定し、既にその線で動いているから、この5年間は今さら何を言っても動かしようがないかも知れないが、ここで黙っていると次の5カ年計画も、経済性が織り込まれない政策になる恐れがある。

今回も緑のダムの唯一の発言は、「神奈川県の木造建築棟数が全国2位であるのに、県産材の出荷量が全国最下位、このギャップを神奈川林政はどう埋めるのか。神奈川県には、無数の困難な課題があることは知っている。困難だからこそ、県民に水源環境税を課して解決しようと言うのではないか。経済性創出事業が織り込まれていない第一次5カ年計画は、本来の目標を見失っているように感ずる。

県民会議では当会から以下を提案した。即ち、「“林地団地化”という手法を使って、京都吉田町森林組合が1町歩あたり47万円、群馬多野東部森林組合が13万円の利益を出している。神奈川林政は、これらに学んでほしい」と。

これに対して県民会議は「今は、モニタリング結果を討議しているのであって、林政総論を討議していない」と口を封じられてしまった。いくら圧力をかけられようと、緑のダムが県民会議の委員である限り、この発言を繰り返す。

言うだけなら誰でもできる、当会の管理する森140haで「林地団地化」を実践して経済性ある生産林を実証して見せよう。

その前、過日、県の政策立案に携わっている某職員から「そもそも、この政策には経済性の視点は盛り込まれていない」と聞いた。世界を挙げて「環境と経済に矛盾しない仕組みづくりを考え実践しようとするこの時代」、神奈川県は、どう考えるのだろう。



本庁舎3Fの大会議室

緑のダムは、相模原環境審議会委員も拝命して「相模原環境基本計画」立案に参画しており、その審議会には「環境と経済が矛盾しない持続的な森林経営と協働する市民社会づくり」と主張して、この基本計画案にキッチリと盛り込んで頂いている。

* 最後、何時も寡黙な木平勇吉先生からチョッと厳しい発言があった。「県、報告のニュースレターは、成功への美辞麗句が並んでいる。実態は、そうではない。真実を報告してほしい」。

第五回;川崎ネイチャーフェスティバル:9月14日(第二日曜日)

報告 石村

テーマ : 創ろう「いのちの森」・守ろう「水源の森」

“「川崎のまちづくりNPO」+ 「相模原の森林づくりNPO」” が力を合わせて、水源の森林を大切にしようという広報イベント活動は5回を重ね、順調に発展してきて、今は「川崎の水は多摩川から貰っている」と言う川崎市民は少なくなってきたように思う。

反面、JR貨物跡地は長谷工やクラリオンなど大手企業が買収して空地が、もう殆どない状況になりつつある。ここでも、経済が環境に優位に展開している。この森林広報イベントは、来年までであるが、活動はそれで“お終い”とならないために昨年末、「森林と都市をつなぐ研究会」を立ち上げて、別の形で川崎市や、この地に入居の企業にも協力を求めて歩いている。即ち、森林・環境に配慮した町づくりである。

イベント開催当日14日の朝、パラパラの降りがあったが、徐々に上がって会場に着いた9時には、晴れ間がひろがった。開催も5回目ともなれば50団体余が協力する会場設営は慣れたもので、開場の10時前には準備万端。



向こうのビルより高く積み上げた北加瀬の小田君

今回の目玉は、木端のプール（山梨県、）積木広場、木工教室、バウムクーヘン焼きなど。特に、“ドングリを木のポットに入れて2年ほど自分の家で育てて貰い、森に植えに行こう”という企画は、このイベントにピッタリで大人気であった。

完全な市民手づくりの、こんなイベントは全く家族的な独特の雰囲気です。7000人を下らない入場者。コナ楽しい催しが場所と資金難が故に、来年でお終いなのは、いささかさびしい。

活動報告・Forest Nova

大学1年生が木工を通して気づいたこと

Forest Nova 麻布大学1年 齊藤 駿一

僕は今、Forest Novaとして木工班で活動させてもらっています。木工班では大坪さんと松尾さんの指導の下、間伐材を使ってテーブルや、ベンチを作っています。

木の面を磨くグラインダー（電動やすり）は角を使うとグラインダーの跡がついてしまうために上の腹の部分を使うと良いということ、道具を使っていると自分の体力などまわりが見えなくなるので休憩をいれながら焦らないで作業を進めていくこと、などを親切に教えて頂いて、毎日が新たな発見です！！

しかし、道具を上手く使うコツや使う時に注意すべき点を教えてもらっても、やってみると出来ないのです。

実際に松尾さんが使っているように真似をしてみると少し出来たように、やはり“言葉だけでなく”実際に見て感じ、“自分でやってみる”ことのほうが大切だと言う事を実感しました。

今後は、自分から積極的に行動して、よりたくさんの方のことを学んでいきたいと思います。



朝日新聞掲載について

麻布大学のGreenNovaが新聞に掲載されました。朝日新聞の9月15日の教育欄です。

Forest Novaの学生のほとんどは、この大学内のGreenNovaに所属しており、屋上緑化ではこの緑のダムの活動フィールドである嵐山から植物を提供していただいた経緯もあります。

今後もこれを励みに活動に邁進していきたいと思っています。この記事では、グリーンノバの活動の屋上緑化について紹介されました。僕たちのコメントとして、麻布大学には8つの環境サークルがあるが、我々は現場に行って実際に活動するフィールドワークにこだわりたい、ということが紹介されています。

（ForestNova 副代表 滝澤 康至）

去る11日、相模原市の内郷小学校の総合的な学習の時間にて森の話をさせていただきました。同校の校長と縁のあるエコナクラブの淵上さんにお声をおかけいただいた3年生対象の講座でした。

森について特に予備知識等ないということですので、簡単なスライドを作成し、できるだけ簡単になるように心がけ、森のはたらき、なぜ森の手入れがなされなくなったのか、その結果どういった問題が起こるのかなどについて話をさせていただきました。

普段小学生に話す機会などないものですから、予想外な質問を連発され、同行していただいた石村さんにだいぶ助けていただきました。しかしながらそのせいか話はかなり活発に進み、いろいろな子どもが本当に色々な質問をしてくれて非常に充実した講座になったと思います。

そもそも総合的な学習の時間では教員側でこれが到達点である、ということを決めずに話を展開していきます。ですから、その子ども子どもで違って来るものがある、それは着眼点であったり、問題点、その解決方法は様々です。そこをいかにのばしてやれるか、いかにその場を用意できるかが我々の仕事になります。同校の校長から色々な種をまいてほしい、と言われたのもそういう意味で、ゆとり教育の元凶とされている総合学習ですがちゃんとこういったところに根付いているんだと感じた出前授業でした。



最後になりますがこのような機会を作っていただいた淵上さん、橋本さんに深く御礼申し上げます。ちなみに家も近所だということが発覚しました。以上です。

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : N PO 法人緑のダム北相模

事 務 局 : 154 - 0023 東京都世田谷区若林 3 - 3 5 - 9

発行人 : 石村 黄仁 T&F 03 - 3 4 1 1 - 1 6 3 6

H P : <http://midorinodam.jp> E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体 : 神奈川県(企画部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域県政総合センター) セブンイレブンみどりの基金

ご支援の団体 : WWF・JAPAN, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、東急コミュニティ J F E メカニカル, 神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、アルプス技研、